

## 中級障がい者スポーツ指導員 カリキュラム

領域	基準カリキュラム	時間	内容（指導者制度で定められている内容）	参考（カリキュラムのポイント・キーワードなど） ※障がい者スポーツ指導教本の内容を抜粋 カリキュラム読替の参考にしてください。	
医療	障がい各論	11	障がいの種類や特性を学び、より専門的な指導ができるような知識を身に付ける。 ◇ 身体障がい(内部障がいを含む) 6時間以上 ◇ 知的障がい 3時間以上 ◇ 精神障がい 2時間以上	・障がいの分類 ◇ 身体障がい ① 肢体不自由(切断・欠損、脊髄損傷、脳性麻痺、脳血管障がい、頭部外傷 など) ② 視覚障害、③ 聴覚障害、④ 内部障がい ◇ 知的障がい(発達障がいを含む) ◇ 精神障がい(統合失調症、うつ病 など)  ・障がいの原因となる疾患 ・スポーツを行う際の注意点	
	補装具の理解	2	補装具の種類とその構造を知り、その取り扱いについて学ぶ。(車いすのパンク修理などの実務経験も含む)	・補装具の種類(義肢、装具、車いす、杖、その他用具 など) ・補装具の特徴、備えるべき条件	
体育学	文化としてのスポーツ	2	文化としてのスポーツの位置づけやその意義、在り方を学ぶ。		
	身体の仕組み	2	身体の仕組みとその構造について学ぶ。	・骨格系・筋肉・中枢神経系・呼吸循環系	
	トレーニング論	3	トレーニングの原則や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的な練習計画の作成ができる知識を身に付ける。	・トレーニングの原理、原則・トレーニング処方の実際 ・障がい者へのトレーニング指導の留意点	
	発育・発達	3	身体の発育・発達の原則と精神的な発達、知的障がいの発育・発達について学ぶ。		
	救急処置法	3	スポーツ現場における応急処置、心肺蘇生法およびAEDについて、実技を通して学び、対応できる技術を身に付ける。		
	スポーツ心理学Ⅰ	3	スポーツへの動機づけの仕方、あがりの仕組み、リラクゼーション法、メンタルトレーニングなどについて理論と実践を学ぶ。	・障がい受容	
	スポーツと栄養	2	栄養と身体活動の関係とスポーツの特性を踏まえた効果的な栄養摂取の仕方など(休息、水分補給、サプリメントの摂り方含む)を学ぶ。		
障がい者スポーツ	障がい者のスポーツ指導における留意点	3	各障がいに応じた指導の事例を通して、指導上の留意点を学ぶ。		
	全国障害者スポーツ大会	歴史と目的と意義	2	全国障害者スポーツ大会の歴史的背景と目的と意義を学ぶ。	
		選手団の編成とコーチの役割	2	全国障害者スポーツ大会における選手選考の流れや参加申込方法と選手団編成の仕組み、コーチの在り方や役割を学ぶ。	
		実施競技 障害区分	2	全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目の概要を学ぶ。 全国障害者スポーツ大会で適用されている障害区分を学ぶ。	
実技実習	競技の指導法と競技規則	12	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。 ◇ 水泳 3時間 ◇ 陸上 3時間 ◇ その他3競技 2時間ずつ(全国障害者スポーツ大会の競技より選択)	● 個人競技 陸上競技(身・知)、水泳(身・知)、アーチェリー(身)、卓球(身・知)、STT(視)、フライングディスク(身・知)、ボウリング(知) ● 団体競技 バスケットボール(知)、車椅子バスケットボール(身)、グランドソフトボール(視)、バレーボール(聴・知、精)、ソフトボール(知)、サッカー(知)、フットベースボール(知)	
	最重度障がい者のスポーツの実際	2	最重度障がい者がおこなっているスポーツの体験を通し、様々な創意工夫の実例を学び、障がい者であってもスポーツを楽しむことができることを体感する。		
総時間		56時間			